



# NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M セットアップ・復旧ガイド

第1版

2026年6月

© NEC Corporation 2026

## 商標について

Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書のサンプル画像などで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書の内容および本書を使用した結果について明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

© NEC Corporation 2026

# 目次

1	はじめに .....	5
2	装置のセットアップ .....	6
2.1	サーバ本体の設置 .....	6
2.2	ケーブル・周辺機器の接続 .....	6
3	インストール .....	8
3.1	インストーラの入手 .....	8
3.2	USB スティックの作成 .....	8
3.3	インストーラを用いたインストールの実施 .....	10
4	初期設定 .....	12
4.1	起動 .....	12
4.2	BIOS の設定 .....	12
4.3	Red Hat Enterprise Linux の設定 .....	13
4.4	iLO アカウント情報の登録 .....	16
4.5	AMS のアプリケーションアカウント作成 .....	17
4.6	Generative AI FW の設定 .....	17
4.7	ESMPRO/ServerAgentService の設定 .....	17
5	装置の再起動・シャットダウン .....	18
6	障害後の設定復旧 .....	19
6.1	復旧作業前の準備 .....	19
6.2	装置への接続手順 .....	19
6.3	設定バックアップファイルのリストア手順 .....	20

---

# 1 はじめに

本書では、ご購入された **NEC Generative AI Appliance Server** の運用を開始する前に行うセットアップ及び運用時の復旧方法に関して説明します。

本書は、『**Generative AI FW V2.2.2**』が搭載された『**NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M**』を対象としています。

## 2 装置のセットアップ

### 2.1 サーバ本体の設置

サーバ本体の設置を行う際は「Express5800/R120k-2M ユーザーズガイド」の「2章」「3.1 設置」を参照の上、適切な方法で設置を行ってください。

### 2.2 ケーブル・周辺機器の接続

設置したサーバ本体にケーブルや周辺機器を接続します。

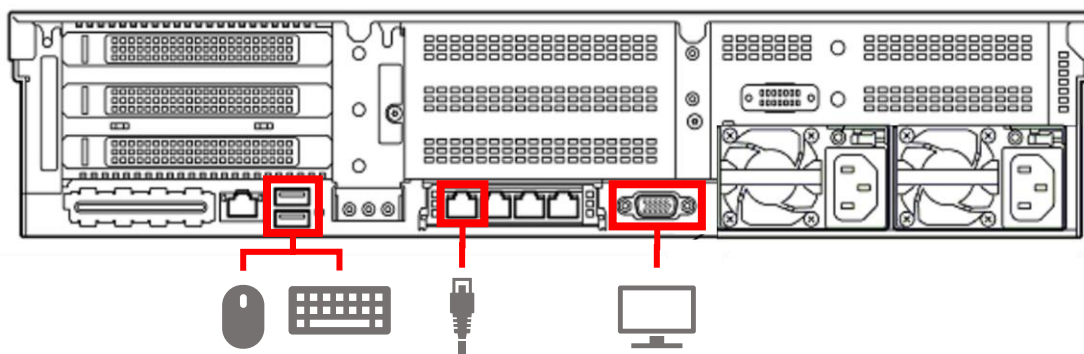
下記の機器・ケーブルを用意してください。

- ディスプレイ
- マウス
- キーボード
- 電源ケーブル(本装置に同梱)
- LAN ケーブル

ディスプレイを本装置背面のディスプレイコネクタに接続します。

キーボード、マウスを USB コネクタに接続します。

LAN ケーブルを中央付近にある 4 つ並んだ LAN ポートの一番左端のポートに接続してください。



最後に電源ケーブルを AC 電源コネクタに接続します。

ディスプレイ、キーボード、マウスを装置に接続せずに、iLO を使用することも可能です。

iLO の詳細については、NEC サポートポータルでコンテンツ ID 3170103011 を検索し、「Express5800/R120k-2M ユーザーズガイド」の「iLO7 ユーザーズガイド」を参照してください。

---

以上で装置のセットアップは完了です。

続けてインストールを行う際は「**3 インストール**」を参照してください。

---

## 3 インストール

本装置の工場出荷状態は、OS および各種ソフトウェアがインストールされていない状態です。  
装置を利用可能な状態にするには、初期イメージのインストールを実施してください。

### 3.1 インストーラの入手

インストールを行うためには zip ファイル形式のインストーラを使用します。

インストーラの入手方法は、NEC サポートポータルでコンテンツ ID 3170103177 を検索し、「NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M ユーザーズガイド」の「インストール物件の入手方法」を参照してください。

### 3.2 USBスティックの作成

入手した zip ファイルを使ってインストール用の USB スティックを作成します。

USB スティックの作成は Linux 環境のサーバで実行してください。

※USB スティックは容量が 128GB 以上のものを使用してください。

#### 3.2.1 USBのパーティション設定

USB スティックを Linux 環境のサーバに接続し、どのデバイス名で認識されているかコマンドで確認します。

以下は USB スティックがデバイス名「sdX」として認識されている場合の例です。

以降の手順中の「sdX」は、実際に確認した USB スティックのデバイス名に読み替えてください。

```
$ lsblk -o +VENDOR, MODEL
NAME          MAJ:MIN RM  SIZE RO TYPE MOUNTPOINT VENDOR  MODEL
sdX           8:0    0 476.9G 0 disk          XXX    SSD-XXXXX
... (以下略)
```

確認したデバイス名でパーティション設定を開始します。



#### 設定時の注意事項

以降の手順で USB スティック内のデータは初期化されます。

重要なデータが保存されている場合は他の場所に退避してからパーティション設定を開始して

---

ください。

---

```
$ sudo fdisk /dev/sdX
```

GPT パーティションテーブルを作成します。

```
コマンド (m でヘルプ): g
```

新たにパーティションを作成します。

以下の例では、パーティション番号をデフォルト設定の「1」としているため、以降パーティションを選択する際は「sdX1」を指定します。

```
コマンド (m でヘルプ): n
パーティション番号 (1-128, 既定値 1): (ENTER を入力)
最初のセクタ (2048-1000215182, 既定値 2048): (ENTER を入力)
最終セクタ, +/-セクタ番号 または +/-サイズ {K, M, G, T, P} (2048-1000215182, 既定値
1000215182): (ENTER を入力)
```

新しいパーティション 1 をタイプ Linux filesystem、サイズ 476.9 GiB で作成しました。  
パーティション #1 には vfat 署名が書き込まれています。

```
署名を削除しますか? [Y]es/[N]o: y
```

署名は write (書き込み) コマンドを実行すると消えてしまいます。

ディスクに書き込み、パーティション設定を終了します。

```
コマンド (m でヘルプ): w
```

作成した USB スティックのパーティションに FAT32 ファイルシステムを作成します。

```
$ sudo mkfs.vfat -F 32 /dev/sdX1
```

### 3.2.2 zipファイルをUSBスティックに展開

USB スティックを任意の場所にマウントします。

ここでは /media/usb ディレクトリにマウントする例を示します。

```
$ sudo mkdir /media/usb
$ sudo mount /dev/sdX1 /media/usb
```

zip ファイルを USB スティックに展開します。

```
$ sudo unzip <zip ファイルのパス> -d /media/usb
```

USB スティックをアンマウントします。

```
$ sync
$ sudo umount /media/usb
```

アンマウントしたら、USB スティックをサーバから取り外してください。

## 3.3 インストーラを用いたインストールの実施

作成した USB スティックを用いて初期イメージのインストールを実施します。

### 3.3.1 インストールメディアの接続

サーバに USB スティックを接続します。

本体装置の電源を入れ、POST 画面で F11 キーを押して One-Time Boot Menu を起動します。

USB スティックのデバイスを選択してインストーラを起動します。

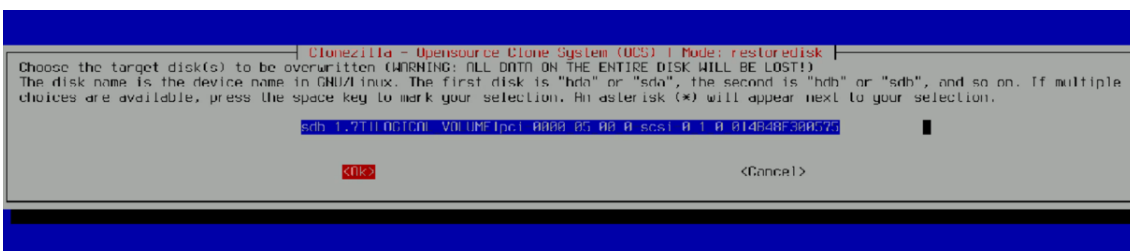
### 3.3.2 インストールの実行

以下の画面が表示されるので、「Clonezilla live with img NGAS\_R120k2M\_20260417\_00 (VGA 800x600)」を選択し ENTER を押下します。



以下の画面でイメージのインストール先となるデバイスを選択します。

「XXXX.....(※インストール先の RAID LD)」と記載のあるデバイスを選択してください。



以降は自動でインストールが実行されます。

※環境によってインストール途中で「press Enter to continue .....」と表示されることがあるので、ENTERを押下してインストールを継続してください。

コンソール上に以下の表示が出たら、インストールが正常に終了しています。

```
... (略)
Ending /usr/sbin/ocs-sr at YYYY-mm-dd HH:MM:SS UTC...
"ocs-live-restore" finished.
Check /var/log/clonezilla.log for more details.
The next step: true
Now run: true
user@debian:~$
```

以下のコマンドを入力し、サーバをシャットダウンします。

```
$ shutdown -h now
```

シャットダウンしたことを確認したら、USBをサーバから取り外してください。

以上でインストールは完了です。

続けて初期設定を行う際は、「4 初期設定」を参照してください。

バックアップファイルを使用した復旧を行う際は、「6 障害後の設定復旧」を参照してください。

---

## 4 初期設定

### 4.1 起動

装置前面の電源スイッチを押してください。

電源ランプが緑色に点灯し、装置が起動します。

### 4.2 BIOS の設定

装置の起動時に POST 画面で F9 キーを押して、**System Utilities** を起動します。

以下の 3 つの設定を行います。

- Thermal Shutdown の設定

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options > Thermal Shutdown を [Disabled] に設定します。

- Thermal Configuration の設定

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options > Thermal Configuration を [Increased Cooling] に設定します。

- 日時の設定

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Date and Time に現在の日時を設定します。

設定完了後、F10 キーを押して設定を保存し、**System Utilities** を終了します。

---

## 4.3 Red Hat Enterprise Linux の設定

### 4.3.1 ログイン

本装置には Red Hat Enterprise Linux の初期ユーザーが登録されており、ユーザー名とパスワードは別途配信される「初期パスワードとマニュアル掲載ページのご案内」に記載しております。

ディスプレイに表示されているログイン画面から初期ユーザーでログインします。

### 4.3.2 ネットワーク設定

- ホスト名の設定

「端末」アプリケーションから `hostnamectl` コマンドで、ホスト名(FQDN)を設定します。

```
$ sudo hostnamectl set-hostname <ホスト名 (FQDN)>
```

「端末」アプリケーションを一旦終了し、再度アプリケーションを起動します。

`hostnamectl` コマンドでホスト名が変更されたことを確認します。

```
$ hostnamectl status --static  
(設定されたホスト名が表示されます)
```

- IP アドレスの設定

Red Hat Enterprise Linux のドキュメントを参照し、`ens15f0` ネットワークインタフェースに IP アドレスを設定します。

[https://access.redhat.com/documentation/ja/jp/red\\_hat\\_enterprise\\_linux/9/html/configuring\\_and\\_managing\\_networking](https://access.redhat.com/documentation/ja/jp/red_hat_enterprise_linux/9/html/configuring_and_managing_networking)

<例>

- 接続の一覧表示

```
$ nmcli connection show
```

- `ens15f0` に IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバ、自動接続を設定する例

```
$ sudo nmcli connection modify ens15f0 ¥  
  ipv4.method manual ¥  
  ipv4.addresses 192.0.2.1/24 ¥
```

```
ipv4.gateway 192.0.2.254 ¥
ipv4.dns 192.0.2.200 ¥
connection.autoconnect yes
```

設定を反映します。

```
$ sudo nmcli connection up ens15f0
```

設定反映後、ping コマンドなどで外部への疎通を確認してください。

### 4.3.3 時刻同期設定

以下のいずれかの方法で時刻同期設定を行ってください。

- 手動設定

システムの現在時刻を変更します。

```
$ sudo timedatectl set-time <HH:MM:SS>
```

HH は時間、MM は分、SS は秒を表す数字に置き換えます。

システムの現在日を変更します。

```
$ sudo timedatectl set-time <YYYY-MM-DD>
```

YYYY は 4 桁の年に、MM と DD は 2 桁の月と日に置き換えます。

時間を指定せずに日付を変更すると、時間は 00:00:00 に設定されることに注意してください。

現在日時の変更を確認します。

```
$ timedatectl
```

- NTP プロトコルによる設定

Red Hat Enterprise Linux は NTP プロトコルによる時刻同期に対応しています。

NTP プロトコルによる時刻同期を利用する場合は、Chrony の設定を行います。

詳細は Red Hat Enterprise Linux のドキュメントを参照してください。

[https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red\\_hat\\_enterprise\\_linux/9/html/configuring\\_basic\\_system\\_settings/configuring-time-synchronization\\_configuring-basic-system-settings](https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_enterprise_linux/9/html/configuring_basic_system_settings/configuring-time-synchronization_configuring-basic-system-settings)

---

<例> NTP サーバ `ntp.example.com` と同期する例

- Chrony の設定ファイルを更新します(エディタは `vi` 以外でも構いません)。

```
$ sudo vi /etc/chrony.conf
```

```
pool 2.rhel.pool.ntp.org iburst
```

の行を、以下の内容に変更し保存します。

```
server ntp.example.com iburst
```

- `chronyd` サービスを開始、有効化します。

```
$ sudo systemctl enable --now chronyd
```

- 同期状態を確認します。

```
$ chronyc tracking
...(略)
System time      : 0.000006523 seconds slow of NTP time
...(略)
```

## 4.3.4 Red Hat カスタマーポータルへの登録

本製品には「Linux サービスセット」契約が含まれており、Red Hat カスタマーポータルに登録が可能です。

手順は NEC サポートポータルでコンテンツ ID 3140001276 を検索し、「[RHEL] Red Hat カスタマーポータル(旧 Red Hat Network) 利用手順」を参照してください。

## 4.3.5 GPU枚数の設定

NEC Generative AI Appliance Server には GPU 数の異なる複数の構成があります。搭載されている GPU の個数によって設定を変更する必要があります。

搭載されている GPU の個数を以下のコマンドで確認します。

```
$ sudo nvidia-smi -L
```

「GPU 0:」で始まる行だけが出力された場合は GPU の個数は 1 個です。

---

「GPU 0:」で始まる行と「GPU 1:」で始まる行の 2 行が出力された場合は GPU の個数は 2 個です。

- GPU の個数が 1 個の場合  
設定変更は不要です。次の手順に進んでください。

- GPU の個数が 2 個の場合  
/opt/nec/genai/config/genai.env ファイルの更新

```
$ sudo vi /opt/nec/genai/config/genai.env
```

(エディタは vi 以外でも構いません)

```
TENSOR_PARALLEL_SIZE=1
```

の行の「1」を以下のように「2」に変更します。

```
TENSOR_PARALLEL_SIZE=2
```

## 4.4 iLO アカウント情報の登録

本装置は iLO7 を搭載しており、iLO アカウント情報 (ログインユーザー名、パスワード) の登録が必要です。iLO アカウント登録ツール があらかじめインストールされていますので、以下の手順に従って iLO アカウント情報を登録してください。

iLO の詳細については、NEC サポートポータルでコンテンツ ID 3170103011 を検索し、「Express5800/R120k-2M ユーザーズガイド」の「iLO7 ユーザーズガイド」を参照してください。なお、iLO の初期認証情報は、装置本体に記載されています。

- root 権限を取得します。

```
$ sudo -i
```

- iLO アカウント登録ツールの格納ディレクトリへ移動します。

```
# cd /opt/nec/ilouserset/
```

- 以下のコマンドを実行して、iLO アカウント情報を登録します。

```
# ./iLOUserSet -u <ユーザー名> -p <パスワード>
```

ユーザー名は、1 から 39 文字の半角英数字・半角記号を指定してください。

パスワードは、0 (パスワードなし) から 39 文字の半角英数字・半角記号を指定してください。

---

半角記号を指定する場合は、半角記号の前に ¥ を入力してください。

アンダーバーを指定する例 : abC¥\_xYZ

パスワードがないときは下記のように "" を指定してください。

```
# ./iLOUserSet -u <ユーザー名> -p ""
```

- "iLOUserSet: account data registered successfully."が表示されれば登録は完了です。

iLO アカウント情報の登録後、登録内容を反映するため、OS を再起動してください。

## 4.5 AMS のアプリケーションアカウント作成

Agentless Management Service (AMS) は、iLO 仮想 NIC (VNIC) を用いて iLO と通信します。

ご利用になる場合は、NEC サポートポータルでコンテンツ ID 9010111981 を検索し、「Express5800 シリーズ Starter Pack Version S8.10-014.02」より「Agentless Management Service (AMS) をご使用時の注意事項」を参照し、AMS のアプリケーションアカウントを作成してください。

## 4.6 Generative AI FW の設定

本装置には Generative AI FW V2.2.2 が構築された状態です。

Generative AI FW V2.2.2 のセットアップガイドを参照し、セットアップを行ってください。

## 4.7 ESMPRO/ServerAgentService の設定

ESMPRO/ServerAgentService (Linux 版)は装置を監視するソフトウェアです。

本装置には既にインストールされていますが、設定はされていません。

ご利用になる場合は、NEC サポートポータルでコンテンツ ID 9010110997 を検索し、「【ESMPRO/Server AgentService(Linux)】 Express5800 シリーズ対応 最新バージョン(RHEL9 x86\_64 向け)」を開きます。R120k-2M の行にある「2.3.8-0(SAS)※1」をクリックしてダウンロードし、同梱の「ESMPRO/ServerAgent Service Ver.2.3 インストレーションガイド」の「2 章」「3. インストールを終えた後に」を参照して設定を行ってください。

以上で装置の初期設定は完了です。

## 5 装置の再起動・シャットダウン

NEC Generative AI Appliance Server では、WebUI である「メンテナンス GUI」を用いて装置の再起動・シャットダウンを行うことができます。

以下のガイドを参照して、メンテナンス GUI に接続してください。

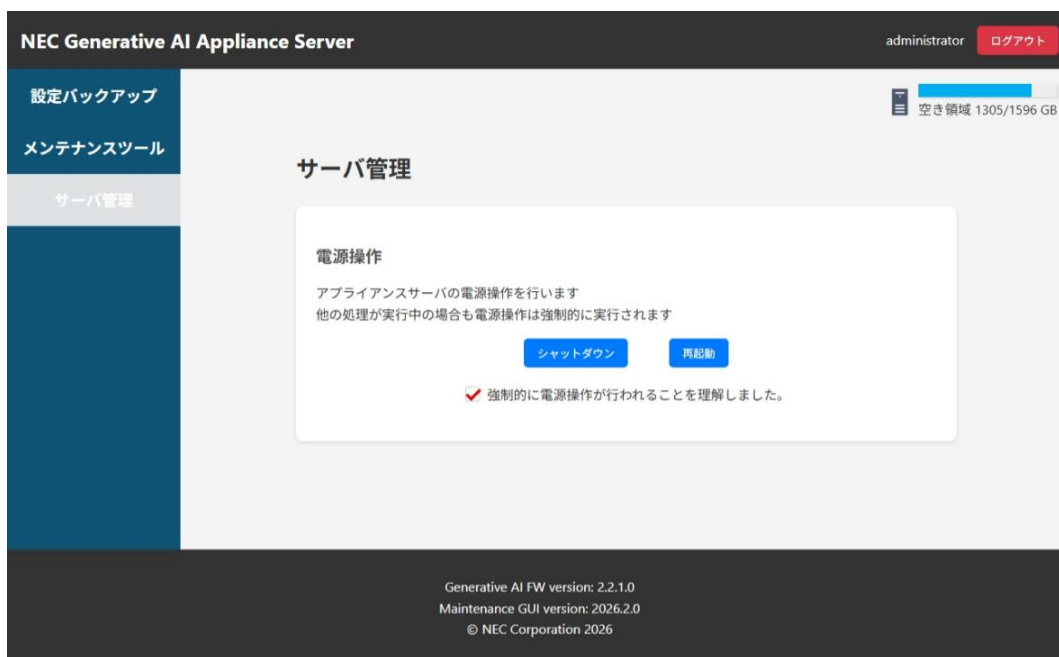
[NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド](#)

[「3 接続方法について」参照](#)

サイドバーから「電源管理」のタブを選択して、再起動・シャットダウンを実行します。

[NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド](#)

[「5.5 サーバ管理」参照](#)



---

## 6 障害後の設定復旧

この章では、NEC Generative AI Appliance Server のディスク障害などにより、データが消失した際の設定復旧手順を説明します。

本装置には、設定のバックアップ・リストア機能があります。

あらかじめ正常時にバックアップを取得しておけば、障害発生後でも設定を簡単に復元できます。

詳しい操作方法は、「NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド」を参照してください。

もし、ハードウェア障害でディスクデータが失われた場合は、まず保守部門へ連絡し、ハードウェア交換を実施してください。次に、本ガイド「3 インストール」に従ってインストールを実施してください。

以降の章では、インストール完了後の装置に対して、事前に取得したバックアップファイルを使って復旧する手順を説明します。

### 6.1 復旧作業前の準備

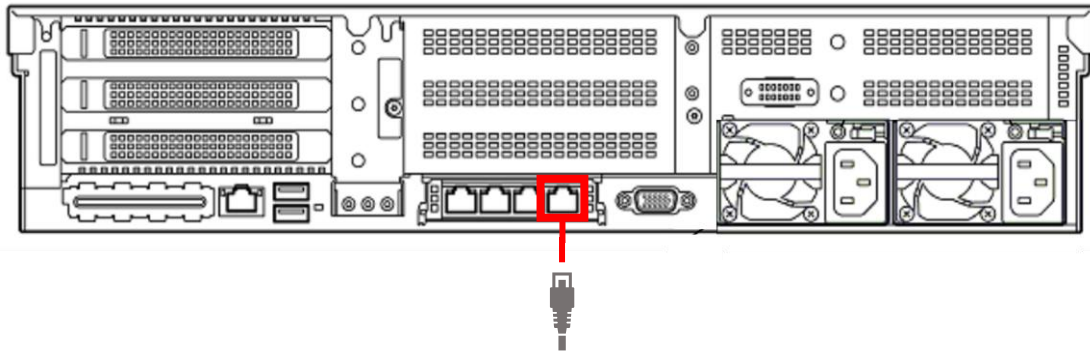
下記の機器・ファイルを用意してください。

- インストールが完了した本装置
- Microsoft Edge ブラウザが利用可能な Windows OS 搭載コンピューター
- 事前に作成した設定バックアップファイル (Windows OS 搭載コンピューターに格納してください)
- LAN ケーブル

### 6.2 装置への接続手順

#### 6.2.1 LANケーブルで装置に直結する

Windows コンピューターを、本装置背面の中央付近にある 4 つ並んだ LAN ポートの一番右端のポートに LAN ケーブルで直接接続してください。



## 6.2.2 ネットワーク疎通確認

装置側には IP アドレス 169.254.111.11 が割り当てられています。

Windows コンピューターからコマンドプロンプトで以下を実行し、疎通を確認します。

```
$ ping 169.254.111.11
```

応答がない場合、Windows コンピューターの IP アドレスを手動で以下に設定してください。

- IP アドレス: 169.254.111.12
- サブネットマスク: 255.255.0.0

設定後、再度 ping コマンドで疎通確認を行ってください。

## 6.2.3 メンテナンスGUI へアクセス

Windows コンピューターの Microsoft Edge で、下記 URL にアクセスします。

- <https://169.254.111.11:20531/login>

インストール完了後の初期ログイン情報は、別途配信される「初期パスワードとマニュアル掲載ページのご案内」に記載しております。

## 6.3 設定バックアップファイルのリストア手順

詳細な手順や画面は「NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド」を参照してください。

---

### 6.3.1 ファイルのアップロード

メンテナンス GUI で「設定バックアップ」の画面を開き、事前に保存しておいたバックアップファイル  
をアップロードします。

NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド

「5.2.4 バックアップファイルをアップロードする」参照

### 6.3.2 リストアの実行

アップロードしたバックアップファイルの「リストア」ボタンを押してください。

NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド

「5.2.5 リストアを実行する」参照

### 6.3.3 装置の再起動

リストア後は、画面の案内に従い装置の再起動を行います。

NEC Generative AI Appliance Server/R120k-2M メンテナンス GUI バージョン 2026.5.0 ガイド

「5.2.5 リストアを実行する」参照

装置の再起動後、初期設定のうち「4.3.4 Red Hat カスタマーポータルへの登録」、「4.4 iLO アカウント情報  
の登録」および「4.5 AMS のアプリケーションアカウント作成」を実施してください。

また、復旧作業により BIOS が初期状態に戻った場合は「4.2 BIOS の設定」も実施してください。